

台湾の“旬”と“今”をお届けします。

# 台湾Express!

## はじめに…

静岡県は2012年3月に直行便が就航して、僅か1年で県事務所の開設、観光協定、防災協定、金融機関同士の業務提携等、官民間問わず交流が盛んです。中でも今年の2月に締結された富士山・玉山の友好山提携は今後の日台交流に大きく貢献するものと思われます。今回は富士山の世界遺産認定を追い風に、更なる交流を深める静岡県の取組みや今後の展望をレポートします。

## 1、観光での取組み

### 1. 友好山協定

直行便就航以前より台湾と静岡県では既に189便のチャーター便が行き交う程の実績があり(期間:2009年6月～2012年3月)、観光誘客をメインの目的に事務所を開設致しました。台湾から静岡県への宿泊者数は年間64,000人(2012年JNTO宿泊統計)であり、それをさらに増やし、静岡空港をデイリーとすることを目標としており、事務所開設後は旅行商品造成・告知、静岡県の知名度の向上等に取組んでいます。

その中でも今年の2月に締結された両国を代表する「友好山協定」が果たす役割は大きく、観光・自然・文化の交流・協力はもちろん、登山客の管理体制に関しても情報共有・協力を行うなど、より深いレベルでの協定と言えます。これは協定締結前の1年前に「協定締結に向けた覚書」を交わし、相互にお互いの要望や課題等について活発な議論がなされた結果と言えます。

### 2. 台湾に根差した活動へ

静岡県では独自で県・富士山の認知度を上げるためFacebookやブログなどで県にまつわる様々な情報をタイムリーに更新したり、会員向けのキャンペーンを行ったりと地道なプロモーションに力を入れています。(Facebookのフォロワーは約18千人/2014年3月末)また台湾で盛んなSNSを通じ、静岡県をより身近に感じられるよう、台湾人のゲスト講師を招いてのセミナー「雲上の富士山」の開催等、工夫を凝らしています。

静岡県が今年4月に公表したデータによると台北便の搭乗率は80.9%と2012年3月の就航以来最高値記録(他の国際線の平均搭乗率は65.3%)するなど、早くも取組み効果が数字として現れはじめています。今後はB to Bにおいて「旅行商品造成のための情報発信」「旅行商品販売のための販売広告」に注力するとのこと、そのためには台湾での活動だけでなく、県や旅行関係者も台湾側のニーズを理解し一体となった取組みとして進めていくことが重要とのことです。



富士山・玉山友好山協定に向けた覚書交換交流会



セミナー「雲上の富士山」の様子



facebookページ「発見。五感静岡」

## 2. 分野別の交流促進

### 1. only oneの関係を目指して

観光誘客の取組みにおいては、静岡県は後発組と言えます。そのため台湾の人々に静岡県が特徴ある地域として認知してもらうために「顔の見える関係作り」を中長期的に取り組んでいる姿勢が伺えます。特に、青少年や文化・スポーツ分野への交流は、野球、バスケットボール、サッカー、茶文化などへ広がりを見せており、静岡県から積極的に台湾を訪れる修学旅行の奨励も知事の肝入りとのこと。

さらに、民間の交流を支援する県の事業もあり、2013年度は、富士山・玉山の交流をはじめ、自然保護、ウォーキング、伝統音楽、福祉、茶文化理解等、様々な民間交流が台湾で行われました。こうした地道な取組みや交流があってこそ、各種の協定が活かされると言え、静岡県は、台湾との関係において、one of themからonly oneとなることを目指しています。

### 2. 防災協定

上記以外の取組みとして全国的に見ても先駆けとなる静岡県と台湾の複数の自治体との間で締結した「防災協定」があります。県総合計画では、先進的な防災の取組みについて、静岡県との交流のある国・地域との連携を深めていくことを掲げています。中国の「浙江省(せつこうしょう)」や韓国の「忠清南道(ちゅうせいなんどう)」との交流も進めるなかで、東日本大震災で多くの支援を受けた台湾との防災交流も進めていくこととしています。

協定の主な内容は、防災組織体制、支援活動、調査研究の情報共有、防災訓練、研修人員の派遣交換といった平時の実務協力から支援申請のプロセス、物資調達、輸送といった災害時の相互支援や被災後の復興再建に関する内容が盛り込まれています。今年3月には、基隆市、台北市が、原子力防災訓練への視察を行うなど、協定による実質的な交流はすでにスタートしており、今後は「隣人としてのお付き合い」に発展していくものと思われます。このように静岡県では観光を柱に各分野の交流・協定へと事業を展開しており、なにより台湾に根差した活動・交流が台湾の方に支持されていることが伺え、今後も多方面での交流が期待されます。

▼ 直行便就航後の取組みや交流推進等の経緯一覧

2012年 3月 25日	桃園国際空港⇄富士山静岡空港で直行便が就航(火、木、日の週3便)
2013年 3月 31日	直行便の増便(火、木、金、日の週4便)
2013年 4月 22日	ふじのくに静岡県台湾事務所開所 富士山と玉山の友好山交流の推進
2013年 5月 25日	「富士山と玉山の友好山提携の協定締結に向けた覚書」の交換
2013年 6月 10日	嘉義空港初の国際チャーター便が静岡空港間で運航
2013年 6月 13日	静岡銀行と中国信託ホールディングの業務提携
2013年 7月 20日	裏千家による嘉義県との茶文化交流
2013年 7月 31日	富士山世界遺産を記念したセミナーの開催
2013年 7月 31日	静岡県の浜松市と台北市が「観光交流都市協定」に調印
2013年 8月 25～29日	民間外交事業実施①
2013年 8月 26日	台北市、新北市、台南市、桃園県、基隆市、嘉義県の6市県と防災分野における「防災相互支援協定に向けた覚書」の交換
2013年10月 18～21日	T F 台北国際旅展に出展
2014年 2月 7日	日本富士山協会と中華民国山岳協会との間で「富士山・玉山友好山提携」を締結
2014年 2月 13～19日	民間外交事業実施②
2014年 2月 17日	台北市、新北市、台南市、桃園県、基隆市、嘉義県の6市県と防災分野における「防災相互支援協定」を締結
2014年 3月 2日	富士山と台湾最高峰・玉山の友好山提携記念ツアーの実施



防災相互協力に関する協定締結

## 台湾プチ情報【KANO 衰えぬ人気】

2月27日より公開された映画「KANO(かのう)」の人気の衰えが未だ衰えず、週末ともなると映画館のシートが未だ取れない状態が続いています。興行収入は何と公開5日間で約2.5億円にも達したそうです。この映画は日本統治時代に台湾に実在した「嘉義農林学校(嘉農=かのう)」が甲子園(全国中等学校野球大会)に出場し、初の準優勝を果たした活躍を描いた作品です。またこの映画には野球だけではなく、かつての台湾と日本の関係を感じとることのできる場面もあります。なお日本公開は2015年とのこと。



映画KANOポスター  
公式ページ(Facebook)より